

第3次伊賀市総合計画策定方針パブリックコメント募集結果及び計画への反映結果

意見提出人数：18人（ロゴフォーム受付 16人、郵送受付 1人、支所からのメール便 1人）

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
1	1 策定にあたって	伊賀市総合計画をしっかりと策定していて、（詳細部分や具体的部分で現実に落とし込めていない部分はあるものの）全体的によくがんばっている自治体だと思います。ただ、このような計画が策定されていることを伊賀市民がどこまで知っているかは疑問で、もっと浸透するようになればいいなと思います。よいまちづくりには、そこに住む全員が一人ひとり考えていくことが大事かと思えます。	市ホームページには、PDF形式の概要版の他に、見たいところをすぐに見ることができる「ウェブ版総合計画」がありますので、より多くの方に総合計画を身近に感じていただけるよう周知します。 また、分かりやすい表現とすることを「2基本的な考え方」の最後に加えます。	○
2	1 策定にあたって	1 ページの1 行目：「2024（令和6）年度末には、第2次伊賀市総合計画（第3次基本計画）の期間が満了します。」について 総合計画は市民みんなのものです。当然、誰にでもわかりやすく、自分のものとして受け入れやすい表現・内容に努めた計画であることが重要だと思います。	「まちづくりは『行政による取り組みだけではなく、多様な主体が当事者意識を持って目標を共有し、協働』によって進めるものという考え方」に基づいて行っている旨を1 ページの中段に記載しており、さらに、3 ページの次期計画の基本的な考え方の「②協働・共創によるまちづくりを進めます」にも記載しています。 また、分かりやすい表現とすることを2 ページの「2 基本的な考え方」の最後に加えます。	○
3	1 策定にあたって	1 ページの1 行目：「2024（令和6）年度末には、第2次伊賀市総合計画（第3次基本計画）の期間が満了します。」について 「第2次伊賀市総合計画（第3次基本計画）は2020（令和2）年に伊賀市総合戦略と統合一本化され、より一体的に取り組むようになり、2024年度末に期間が満了します。」に訂正すること。	ご指摘のとおり伊賀市では総合計画に総合戦略を包含しています。 このことについては、今回お示した策定方針(案)の4 ページの4 構成(イメージ)、(4)横断的な取り組みに記載しています。	記載あり
4	1 策定にあたって	総合計画と総合戦略の整合性の考え方について記述すること。 地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引書には「総合計画等を見直す際に、見直し後の総合計画等において、人口減少克服・地方創生という目的が明確であり、数値目標や重要業績評価指標（KPI）が設定されるなど、地方版総合戦略としての内容を備えているような場合には、総合計画等と総合戦略を一つのものとして策定することは可能であると考えられます。」と記述されています。この関係について記述してください。	第3次総合計画においても、総合戦略は引き続き総合計画に包含する予定です。 このことについては、今回お示した策定方針(案)の4 ページの4 構成(イメージ)、(4)横断的な取り組みに記載しています。 なお、いただいたご意見を基に修正します。	○
5	1 策定にあたって	伊賀市過疎地域持続的発展計画と第3次総合計画との整合性について記述すること。 伊賀市過疎地域持続的発展計画には、「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法により、阿山地域、大山田地域、青山地域、島ヶ原地域が指定され、この計画は、第2次伊賀市総合計画（第3次基本計画）との整合を図りながら市全体の持続的な発展に向け取り組みを進めます。」と記述されています。この計画の期間は、令和3年～令和7年の5 か年です。今回の計画策定との整合性を明確にすることが必要です。	伊賀市過疎地域持続的発展計画をはじめ他の計画と整合を図るとともに、必要に応じて見直し等を行います。 なお、いただいたご意見を基に4 ページの4 構成(イメージ)、(4)横断的な取り組みに記載します。	○
6	1 策定にあたって	1 ページの下から10 行目：「コロナ禍での新しい生活様式を確立させるとともに、さらに「誇れる・選ばれる伊賀市」に向けた取り組みを進め、多様な主体との連携により、誰一人取り残さない持続可能な伊賀市（「オール伊賀市」）を実現させることとされています。」について 施策方針に市のテーマ「誇れる・選ばれる伊賀市」や「オール伊賀市」の表現は抽象的で、わかりにくいと思います。また、今までの「『人が輝く 地域が輝く』伊賀市」で何ができただのかを開示することが必要です。	ご指摘のとおり、第2次伊賀市総合計画で取り組んできたことと共に、合併からの20年間を振り返ります。 次の計画では、分かりやすい表現となるよう努めます。	○

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
7	1 策定にあたって	伊賀市の行政評価システムの仕組みには、マネジメントシステム（行政経営全体のPDCA(※1)）の確立が記述されています。当然、新たな計画には、過去の総合計画のPDCAを評価し確認することが必要です。	ご指摘のとおり、第2次伊賀市総合計画で取り組んできたことと共に、合併からの20年間を振り返ります。 ※1「PDCA」：Plan（計画）、Do（実行）、Check（測定・評価）、Action（対策・改善）の仮説・検証型プロセスを循環させ、マネジメントの品質を高めようとする方法。	記載あり
8	1 策定にあたって	1 ページの下から10行目：「コロナ禍での「新しい生活様式」を確立させるとともに、さらに「誇れる・選ばれる伊賀市」に向けた取り組みを進め、多様な主体との連携により、誰一人取り残さない持続可能な伊賀市（「オール伊賀市」）を実現させることとされています。」について ・我が集落では、私も含めて、現在取り残されていると思って諦めている人が多いです。このような状態において、「誰一人取り残さない」のテーマは適さない。 ・同じテーマが、川崎市、豊明市、東海市で使われています。 ・川崎市、豊明市、東海市の計画書や三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する基本計画書にも「誰一人取り残さない」が記載されています。 ・「オール〇〇市」は、隣の甲賀市や君津市の計画書に記載されています。 ・「勇気と覚悟が未来を創る」「『人が輝く 地域が輝く』伊賀市」「誇れる・選ばれる伊賀市」「誰一人取り残さない持続可能な伊賀市（「オール伊賀市」）など抽象的なテーマ・スローガンが多くあり、よくわからない。民間では通用しない。	地域の実情についてのご意見として承ります。 いただいたご意見は関係部署と共有させていただきます。	—
9	1 策定にあたって	・1 ページの下から2行目：「計画的に進めていくために、「第3次伊賀市総合計画」を策定します。」について 「計画的に進めていくため〇〇計画を策定します。」の記述は、江別市の計画書に記載されています。 ・総合計画マネジメント（PDCA(※1)）サイクルと伊賀市行政総合マネジメントシステムを実行する。を記述すること。	人口減少や少子高齢化は、本市に限ったことではなく、全国的に共通する課題となっています。いただいたご意見は関係部署と共有させていただきます。 なお、行政マネジメントの強化については、4 ページの4 構成(イメージ)の(5)に記載しています。 ※1「PDCA」：Plan（計画）、Do（実行）、Check（測定・評価）、Action（対策・改善）の仮説・検証型プロセスを循環させ、マネジメントの品質を高めようとする方法。	記載あり
10	1 策定にあたって	第3次伊賀市総合計画の名称を市民に親しんでもらえるものに変更してください。基本構想と基本計画を一体とする機会に、市民に親しんでもらえる計画の名称とすることはできないでしょうか。新たな名称は中間案ができるまでに検討すればいいので、策定方針には、「新たな名称を検討する」と明記していただければと思います。	今後、検討していきます。	—
11	1 策定にあたって	1 ページの下から8行目：「誰一人取り残さない」について SDGsのスローガンとして一般的ですが、本来は「No one will be left behind」の訳なので「取り残されない」です。「取り残さない」という言い方は取り残されることはない側（強者）の視線であり、「全ての人が自分らしく豊かに生きられるような社会を実現するなら、本当に助けが必要な、取り残されている側の目線に立った言葉であるべき」という立場から、「取り残されない」を採用する場合も増えています。伊賀市としても、この総合計画以降、「取り残されない」を採用していただきたいです。 https://ryukei-susterrace.jp/think/645/ https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digitaldenen/about/effort.html https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sei_toshidou/1397802_00005.htm	策定方針(案)は、第2次伊賀市総合計画第3次基本計画について記載しています。 いただいたご意見を参考に、今後、検討していきます。	—

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
12	2 基本的な考え方	<p>まず前提としている伊賀市の人口の将来推計の正確性に疑問がある。</p> <p>2024年1月末の伊賀市人口は伊賀市統計によると85,857人でありこれには外国人6,011人が含まれているが、この市総合計画には外国籍或いは外国にルーツを持つ人（以下では、定義としては正確ではないが短縮のため外国人と書く）の事が触れられていない。</p> <p>2頁のグラフでは社人研(※2)の将来人口推計グラフしか掲載されていないが、伊賀市では過去3回にわたり「伊賀市人口総合ビジョン」を公開してきた。そこでは社人研の特殊出生率予想よりかなり高く、2025年で1.8、2040年で2.1と高く仮定することで伊賀市の人口将来展望を示している。しかし、先進国で特殊出生率の上昇に成功した例は、広く知られるようにフランス（2020年で1.83）、スウェーデン（2020年で1.66）程度の僅かな国を除いて実績がない。このことは社人研の過去の人口推計に於いても見られるが、仮定した特殊出生率を常に実績が下回るため将来人口推計の改訂の度に下方修正されてきたことから、基本的な前提が間違っていることと、社人研の推計方法を大まかに言うと年齢別の人口分布（平たく言えば人口ピラミッド）に基づいて出生と死亡を積算する一見精緻な計算をしているものの、最も重要な仮定である特殊出生率の数値を変えれば推計結果が大きく変わるもので、現実の自然なトレンドが見えにくい。推計方法の限界であり、水の流が見えていないというか、木を見て森を見ずとも言えよう。</p> <p>現在の伊賀市の日本人の減少トレンドを単純外挿すると2040年には4万7千人程度、2050年には2万人強とも推定できる。既に伊賀市の特殊出生率が2025年に1.8にならないことは止むをえないとしても、2040年に2.1にすることも非常に困難な課題である。簡単に理解されたいと思うが、25年後の出生（人口の増減）に大きく影響するのは足元までの近々の特殊出生率、つまり生まれつきた子供の数であり、一度出産適齢期の人口が大きく減少するとその後特殊出生率が上がっても急速な人口増は起きない。近々は1.4程度を上下してきたが、仮に急に2040年に2.1になっても伊賀市が想定している6万人規模よりかなり少ない人口規模の社会となる事を想定した第3次総合計画にする必要がある。</p> <p>2024年（国勢調査が基準なのでおそらく10月1日か）として社人研が推計している8万5000人弱は本年末にはほぼ正しく到達する見込みである。これは外国人を含めての数字と一致するので、社人研は既に外国人人口を織り込んでいるものと思料する。</p> <p>伊賀市の2024年の日本人の自然減は1000人程度が見込まれる。一方外国人は同じ2024年1月末で6,011人であり現在伊賀市民の7%を占めるに至っている。増加の傾向はコロナの一時を除いて過去の延長線上で加速度的に伸びており、2024年も約400人程度の増加が見込まれる。この第三次伊賀市総合計画策定方針（案）は既に外国人の増加を織り込んでいるのかもしれないがそのことが明確に書かれていないため不明である。ここは明確にしておくべきと思料する。</p> <p>いずれにせよ、伊賀市の人口は2頁のグラフより急速に減少する可能性が高いが、そのことに触れられていないことで、3頁以降の総合計画の全体像が実態と時間と共に大きく乖離していくリスクとなると思料する。</p>	<p>2ページのグラフは、2023(令和5)年12月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来推計人口です。</p> <p>今後、計画を策定する際には、出生数や若年女性(20～39歳)の人口のほか、外国人住民の動向に注視しながら、伊賀市の人口の展望を示します。</p> <p>※2「社人研」：国立社会保障・人口問題研究所の略。</p>	—
13	2 基本的な考え方	<p>「基本的な考え方」に、「市長公約に掲げる施策の反映」の項目を追記してください。</p> <p>2024年11月執行予定の市長選挙の公約の実現を目指すため、市長公約を総合計画に反映させるということを明記してください。</p>	ご指摘のとおり、市長の公約も計画に反映する予定です。	—
14	2 基本的な考え方	<p>少子化が深刻なのは理解できます。でも、現在国や自治体がしている少子化対策は、ただ「社会のために必要だから」「子どもを増やさなければ」と、公が表に出すぎて、若い人の望みとずれている気がします。そこに一人の子どもの顔は存在するのでしょうか。誰のためでも、何のためでもなく、ただ自分たちと、その子のために、「親になりたい」「子育てがしたい」と、本能的に望む人たちが、安心して産み育てる社会を作ろう。そのためには、今生きる人々をもらさず大切にしなければ、好循環は出来ない。そうした考えで取り組んだ方が、若い人たちの出産や子育ての不安は払拭されるのではないのでしょうか。</p> <p>子どもたちを幸せに育てるには、私たちみんなが幸せな大人でないといけないのだと思います。伊賀市の行政にそうした意識をもってもらえたら有難いです。</p> <p>この先、人口が減っても増えても、一部の人が得をしたり、反対に皺寄せされるようなことが、酷くならないような少子化対策や経済対策をお願いします。</p>	人口減少及び少子高齢化対策へのご意見として承ります。いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。	—

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
15	2 基本的な考え方	<p>②協働 共生 について</p> <p>多くの市民は、日々に追われて時間的、経済的・精神的に余裕のない暮らしをしています。体力や気力のある若い人ほど、その傾向でもあります。本来市民がまちづくりや様々な活動に参加できるのは素晴らしいことですが、なかなか人々に余裕がないのが実情です。</p> <p>協働などが、地域への押しつけなどのことなく、一部の人が負担を追うなどもなく、市民の実生活や現状を理解した上でのものであってほしいです。</p> <p>行政の考えと多くの市民の意識は、かけ離れたことが多いと、いつも感じます。無関心や他人事の人もありますが、「意見を言いたいけど言えない」「伝え方がわからない」「言ってもどうせ無駄」「難しく考えられない」「情報が無い」「知らなかった。もう仕方ない」など、市の施策やまちづくりなどに、何だかの思いを持ちながら、もどかしくいる人も多くいます。このようなパブリックコメントなども、難解で勇気がいります。現に私も、知識もなく、書き方がよくわかっていません。このような意見を述べるだけでは駄目なのかどうか。今回も間違っているかも知れず、申し訳ありません。</p> <p>このように、実際どれだけの市民が、選挙以外で、市政にアピールができるでしょうか。5ページの内容にも通じることですが、そのことを踏まえた上で、意見募集のあり方や、日常的に匿名許可の小さな意見の募集や、わかりやすい情報公開などを工夫してください。</p>	<p>暮らしの実情や広聴広報等へのご意見として承り、いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。</p> <p>なお、個別施策についてはタウンミーティングやアンケートなどの機会を捉えて市民の皆さんのご意見を伺っております。それ以外のご意見については、ホームページ内の「市への提案・提言」やお問い合わせホームのほか、お手紙、FAXでも受け付けていますので、どのようなご意見でもお寄せください。</p>	—
16	2 基本的な考え方	<p>「②協働・共創によるまちづくりを進めます」の最後の段落として次の記述を追加してはいかがでしょうか。</p> <p>「市民が当事者意識をもって協働、共創を行うには、情報の共有が不可欠であるため、デジタルの力も活用しながら、情報公開を積極的に進めていきます。」</p> <p>(追加の理由) 情報公開は、協働、共創の前提となる重要な要素であるため。</p>	<p>参画と協働のまちづくりには、市から市民への一方的な情報提供だけでなく、市民からの情報提供や市民同士の情報共有が必要であると考えますので、2行目に「情報を共有し」を加えます。</p>	○
17	2 基本的な考え方	<p>少子化対策として、出産支援だけでなく、中等教育機関の拡充も含めてほしい。(転勤等で他地域から流入した若手が、結婚・出産は伊賀でも、子供の教育のことを考えて県内他地域、愛知、奈良等へ流出するケースが周りに多いです)</p>	<p>人口減少及び少子高齢化対策へのご意見として承ります。</p> <p>いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。</p>	—
18	2 基本的な考え方	<p>3ページ基本的な考え方として、住みやすい伊賀市を目指してほしい。</p>	<p>ご意見として承り、今後の計画の参考とさせていただきます。</p>	—
19	2 基本的な考え方	<p>3ページの ①将来像を描きますの1行目：「統計やデータに基づいた現状分析を行い」について</p> <p>SWOT分析も行ってはどうでしょうか。総合計画策定には、脅威や弱みだけでなく伊賀市の強みや機会についても分析し、夢のある総合計画にしてもらいたいです。</p>	<p>2 基本的な考え方の①将来像を描きますに記載のとおり、弱みだけでなく強みも明らかにしたうえで、計画を策定します。</p>	記載あり

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
20	2 基本的な考え方	<p>(案)：①将来像を描きます これまでの20年間の歩みを振り返り、その成果や今後の課題を共有するとともに、統計やデータに基づいた現状分析を行い、現在の伊賀市の強みや弱みを明らかにしたうえで、これから（10年後、あるいは2050年）の伊賀市の「めざす姿」を示します。 (意見)：①みんなにとってのわかりやすい計画 市民、事業者、各種団体、行政など多様な主体が、まちづくりの課題や方向性を共有し、まちづくりに取り組んでいけるよう、分かりやすい表現に努めた計画とします。</p> <p>(案)：②協働・共創によるまちづくりを進めます 伊賀市の総合計画は、単なる行政のマネジメント計画ではありません。伊賀市では、これまでも総合計画を様々な主体との「協働」によるまちづくりの道標としてきました。これからもこの考え方を大切にし、伊賀市の将来像「めざす姿」を実現させるために、それぞれが今やるべきことを明らかにし、「協働」さらには「共創」による多様性と包摂性のあるまちづくりを計画的に進めます。 (意見)：②みんなが参加するまちづくり 市民が、まちづくりの主役となり、まちの魅力高め、課題の解決が図られる「地域力の向上」の仕組みをつくりまします。まちづくりに参加しやすい環境づくりに努めるとともに、市民のニーズや意向を反映する機会を図ります。</p> <p>(案)：③時代の流れを力にします 引き続き、人口減少対策に取り組みます。特に、こどもたちが将来にわたってしあわせな社会を実現させるために、少子化対策などのことも政策を総合的に進める必要があります。また、コロナ禍を機に、新しい生活様式を確立することが求められるなど、私たちの社会は大きく変容しました。これからのまちづくりには、デジタル技術を活用して社会変革を進めることや、脱炭素社会の実現と経済成長の両立を目指すことも求められています。 (意見)：③誰もが幸せを実感できる豊かな社会を実感できる将来計画を立てます。市政20年間の歩みを振り返り、第1次、第2次総合計画マネジメントによるPDCAサイクルの資料に基づき、現状分析を行い、重点的・優先的に取り組む事項を明らかにしたうえで、めざすまちの達成に向けて、これから（10年後）の伊賀市の「歩む姿」を示します。</p> <p>(案)④地域の資源や特性を活かします 持続可能なまちづくりを進めていくためには、全市一体的な取り組みだけでなく、それぞれの地域の資源を活かしながら地域課題を解決することも大切です。また、「伊賀」の特性を活かし、関係人口を含めた地域内外の多様な主体の参画や、共通の地域課題を抱える他の自治体との連携、さらには国県等との適切な関係づくりなどを進める必要もあります。 (意見)：④持続可能なまちづくりを実現します 市民は、人口縮小型社会、超高齢化社会に対応するため、伊賀市市民憲章、伊賀市自治基本条例に基づき「小規模多機能自治による住民主体のまちづくり」を「自助」「共助」「公助」による補完性の原則に立ち、公共サービスを互いに支えあう「協働・共創」によるまちづくりに取り組みます。</p> <p>(案)：なし (意見)：⑤新しい時代の流れを力にします。・・(基本的な考え方の5つ目に加えるという意見) こどもたちが将来にわたって幸せな充実した社会を実現させるために、少子化対策などのことも政策を総合的に進めます。また、未来技術を活用して、地域が抱える課題を解決するだけでなく、モノやサービスの生産性や利便性を飛躍的に高め、産業や生活等の質を大きく変化させ、地域の魅力を向上させます。</p>	<p>ご意見は、3ページの①将来像を描きますの部分でしたが、「分かりやすい表現に努めた計画」というご意見については、総合計画全般に係ることですので、「2基本的な考え方」の最後に加えます。 ②協働・共創によるまちづくりを進めますの1行目に、「まちづくりの主役は市民です。」を加え、④のみだしを「地域力を高めまします」とします。</p>	○
21	2 基本的な考え方	<p>「①将来像を描きます」。「伊賀市の『めざす姿』を示します」とありますが、施策の実行によって到達できる「めざす姿」だけではなく、人口減によって到来する「受け容れざるをえない厳しい現実」についてはデータを示して、現状認識として列記をお願いします。市民や地域とともにその現実を直視するところから、将来を構想すべきだと思います。</p>	伊賀市の現状を分析したうえで、その結果に基づき計画を策定します。	—
22	2 基本的な考え方	<p>「①将来像を描きます」。諸施策の基礎になる計画として「維持すべき人口規模」については、記述すべきだと思います。自然減を見越して、社会減の水準をどれくらいに抑えなければいけないかを共有し、効果が見込める諸施策を展開すべきと考えます。</p>	具体的な推計、分析は今後の計画策定の中で行います。人口構成や構造に着目するとともに、社会情勢の変化も確認します。	—
23	2 基本的な考え方	<p>「②協働・共創によるまちづくりを進めます」。「取り組みごとに適切な目標を設定し」とありますが、「取り組みごと」だけではなく、計画全体としての目標値は必要だと思います。人口、市民の幸福度・満足度など、市行政が市民・地域と達成すべき大きな目標を共有することが大事だと思います。</p>	計画全体としての目標は、伊賀市のめざす姿の中で示し、みんなで共有します。	—
24	2 基本的な考え方	<p>「②協働・共創によるまちづくりを進めます」。「協働」「共創」によるまちづくりを進めるために、さまざまな対話の場づくり、促進策など、「協働」「共創」のあり方や具体的実現方法について、踏み込んだ議論と記述が必要です。各主体が「協働」「共創」のために何をやるか、具体的に述べるべきです。</p>	協働・共創のあり方やそれを実現するために各主体が何をすべきか等については、今後の計画の中で明らかにしていきます。	—

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
25	2 基本的な考え方	<p>③時代の流れについて 今の時代の流れは 世界をみても、特に先進国は、例えば大開発ありきでなく、自然本来の姿に寄り添うものです。 先人が遺してくれた自然、文化、産業、交通など、伊賀には素晴らしい遺産があり、それを市が大事にしてくれているのはわかっています。でも、開発優先や経済優先の考えが、まだ強く、時代に遅れている感もあります。 失ってからでは、取り戻せないものが多くあり、それらのものを普遍的に大切にすることを行政全体で認識してほしいです。 これまで大事に遺してくれたものや、平穏で豊かな時代に人々のために作ってくれたものを全部使い潰したり、壊したりせずに、私たちの知恵や努力でこの先にも遺したいと思います。 そのためには、市内外の専門家や知識人の方の見識にも 大いに広く耳を傾け協力を得てください。 山や森や川など自然は、特にこれ以上壊さずに。もう十分に活用させてもらったし、むしろこれからは、今のままの姿である方が、世間に注目される度合は増えると思います。 伊賀の子どもたちの多くも、それを望んでいると、作文や絵画などに触れる機会に感じます。 その望みを叶えるのも、子どもたちを大切にす何よりの施策だと思います。 今がよくなることは大事ですが、私たちがいなくなる後の長い未来も見据えて、何を遺すべきか向き合ってください。</p>	<p>いただいたご意見を参考にしながら伊賀市のめざす姿や計画のテーマを検討します。</p>	—
26	2 基本的な考え方	<p>生産人口の減少が根本の問題であり、それにつながる問題として年少人口の減少、手を拱いては明るい将来が見えてこなし、現状見えない。 生産人口年齢の解消があらゆる問題の解消につながると思います。</p>	<p>人口減少及び少子高齢化へのご意見として承ります。 いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。</p>	—
27	2 基本的な考え方	<p>人口減少は止まらずこのままでいくと伊賀市というものが消滅する未来しか見えません。 これまでのやり方では人口が増加する未来が見えません。一部の富裕層以外の一般市民は生活が困窮し大変な状況です。伊賀市においては働ける企業が多く年中人材不足が続いています。他府県から伊賀市に移住してもらえよう移住者に対してメリットのある政策、現在生活している伊賀市民は伊賀市外に出て就職ではなく伊賀市で就職し生活してもらえよう住民税の減税といった市民がこの伊賀市に住みたいという政策をして頂きたい。 高齢人口が増え続けている、しかしながら生活するには車が必須の伊賀市です。移動手段である車というものは今後も必須の交通手段であること、細い道、蛇の寝床のような市内の道路という特性を生かして今後自動運転の技術が進歩し自動運転車が当たり前になってくる実験都市として自動車会社と提携。全国に対しても忍者だけでなく先進技術開発の伊賀市になってほしい。 上記2つ意見させて頂きましたが、今後労働人口が増えない限り伊賀市で営業している企業は倒産する未来しかありません。働き手がない為に外国人技能実習生が多く伊賀市で生活されている現実問題があります。日本ではまず日本人が働き日本を引っ張っていくべきです。</p>	<p>人口減少及び少子高齢化へのご意見として承ります。 いただいたご意見を参考にしながら伊賀市のめざす姿や計画のテーマを検討します。</p>	—

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
28	2 基本的な考え方	<p>既に書かれている事は良いとしても、これから伊賀市の若年層のかなりの割合を占める外国人が抱えている課題解決に触れられていない点は問題と感じる。当然市の教育委員会には、小、中、高の外国人生徒が、日本語の壁によって能力を延ばす上で大変なハンデを抱えていることは報告され、市でも認識していると思料する。外国人割合が増えれば増えるほど、そのことに積極的取り組みずして伊賀市の将来を描くのはかなり非現実的と言えよう。シリコンバレー(※5)は特殊な成功例ではあるが、異文化との共生や相互作用には、伊賀にだけ住み続けている日本人とは違う発想、新しい発想での事業を生む可能性が含まれているはずである。現状、全てがそうだとはいわれないが、日本の企業、個人経営者が必要とする単純労働力として外国人を受け入れている間は、その相互作用は生まれない。しかしこれから日本人が減少することと外国人が増加する事でバランスは変化し、2050年頃には外国人比率は半数近くに達する可能性もある。そうなると外国人はマイノリティではなく、その中からよりグローバルなベンチャーや起業家が出てこない、伊賀市の経済が大幅に縮小することになる。そうならないためには、外国人の生徒、学生にも日本人と同等な学力を育成し、伊賀に定住して事業を起こすだけのチャンスのある施策が必要と言える。そのことを第3次伊賀市総合計画に明確に織り込むためには、この策定方針(案)にそのことを明記しておくべきと思料する。</p> <p>この資料に書かれていない通り、あえて賑わいという言葉を追加する必要は無いだろう。住民一人一人が安心してぼちぼち生きていけること、これがなにより重要であり、いわゆるインバウンド(※6)に代表されるようなイメージの賑わいは無くとも、住民が相互に助け合い生きていけるコミュニティの維持、社会が実現できないか？柔軟に考えてはいかがであろうか？</p> <p>その上で重要なのは、若年層が新しいことをすることを、高齢層が邪魔をしたり足を引っ張ったりしない事と感じる。住友財閥の中興の祖であり、第二代目総理事をまだまだ元気な60歳で部下に譲った伊庭貞剛翁の名言「事業の進歩発展に最も害するものは、青年の過失ではなくして、老人の跋扈(※7)である」まさにそれに尽きる。</p>	<p>人口減少、住民自治のあり方、多文化共生、学校教育に対するご意見として承ります。</p> <p>いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。</p> <p>※5「シリコンバレー」：アメリカ合衆国カリフォルニア州北部のサンフランシスコ・ベイエリアの南部に位置しているサンタクラバレーおよびその周辺地域の名称。多数の半導体メーカーが集まっていたこと、および地形（深谷）由来。</p> <p>※6「インバウンド」：外国人が訪れてくる旅行のこと。</p> <p>※7「跋扈(ばっこ)」：魚がかごを越えて跳ねること。転じて、ほしいままに振る舞うこと。のさばり、はびこること。</p>	—
29	3 計画期間	<p>「基本構想」と「基本計画」を合わせて市長任期の4年間にして、4年ごとに基本構想も描きなおすことに疑問を感じます。</p> <p>基本構想は、今後10年を見通し、ぶれない構想であるべきで、市長の任期により構想を見直すのであれば、構想の意味がないように思います。</p> <p>また、「協働」によるまちづくりを謳っていますが、もっとも協働すべき住民自治協議会のまちづくり計画は10年となっています。</p> <p>住民自治協議会のまちづくり計画を4年ごとに見直すのは、すごくハードルが高いように思いますし、それらとの整合性はどのように思われているのでしょうか。</p>	<p>計画期間につきましては、これまでは「基本構想」はおおむね10年、「基本計画」は市長の任期を基本としていましたが、社会情勢の変化や市民ニーズの変化等に対応するため「基本構想」と「基本計画」をひとつにまとめ、計画期間を4年間とし、その都度10年後の進むべき方向性を描きます。</p> <p>なお、計画期間の4年間は、伊賀市総合計画の期間であり、住民自治協議会のまちづくり計画の計画期間を定めるものではありません。</p>	—
30	3 計画期間	市長任期にあわせるような計画は、市民みんなのものではありません。	総合計画は、社会情勢の変化や市民ニーズの変化等に的確に対応するため、市長の任期である4年間を計画期間としています。	—
31	3 計画期間	社会情勢のめまぐるしい変化に対応するため、計画期間の中間で、進捗状況と計画のレビュー(※4)を実施すべきです。	<p>総合計画に基づき取り組みごとに進捗状況を確認し、必要に応じて計画の見直しを行います。</p> <p>※4「レビュー」：批評、復習、再考。</p> <p>一般的には、映画や音楽の鑑賞、製品を購入し使用、あるいは店舗や施設を利用した際の感想や論評のこと。</p> <p>学術の分野では、論文等の審査や検証、再調査、見直しなどを指す。</p>	—

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
32	4 構成 (イメージ)	(5)行政マネジメントの強化については出来る限り具体的な内容記載を	できる限り具体的に記載し、実効性のあるものにしていきます。	—
33	4 構成 (イメージ)	「(2)将来像、計画のテーマ」について 50年後を考えれば伊賀市のあるべき姿とは残存する見込みがあるところは必ず残すこと。2070年代において中心が廃れても人口を維持すべき場所を設定し、計画性をもって開発していくことが必要。	都市政策に関するご意見として承ります。 いただいたご意見は、庁内で共有させていただきます。	—
34	4 構成 (イメージ)	総合計画は伊賀市政の基本方針ですので、総合計画が具体的な市政にどのように展開されていくのかが分かるようにする必要がありますと考えます。	ご指摘のとおり今後も毎年施策ごとに進行管理を行い公表します。	—
35	4 構成 (イメージ)	「(3)分野別の取り組み 分野を再構築するとともに、分野や施策ごとに現状を分析し、課題を把握し、4年間でやるべきこと、それぞれの主体に求められる役割を明らかにします。また、指標の最適化や個別計画とのさらなる連動を図ります。 少子化対策として、子育て環境の充実を特に旧阿山地区等の非旧上野市外で検討して欲しい。空き家を利用した移住者へ子育てに関する市の対応が重要になると考えます。古く狭い道路の通学路の安全対策を市内全域で実施してほしい。せめて、白線、白線内のグリーンベルトは、目に見える取り組みとしてわかりやすいので即実施してほしいです。	人口減少及び少子高齢化対策へのご意見として承ります。 いただいたご意見は、今後、関係部署と共有させていただきます。	—
36	4 構成 (イメージ)	「(4)横断的な取り組み」について デジタル推進もよいが、地域での横断的な取り組みとして、子供が安心して遊べる公園の充実を期待する。旧上野市外は、徒歩で公園に行けるわけではないため、駐車場付きの公園とその整備を充実させてほしい。白鷺公園に行くより甲賀へ行くことが多い。	個別の施策や事業に対するご意見として承ります。 いただいたご意見は関係部署と共有させていただきます。	—
37	4 構成 (イメージ)	「(1)これまでの振り返り(成果と課題)と社会情勢の変化」について (1)第1次、第2次総合計画での目標とその成果をしっかりと可視化することで課題や改善点を明確化し、PDCAサイクルがより一層効果的に機能するように進行管理を行うことで、合併20年を振り返ります。	現行の第2次総合計画だけでなく、合併からの20年を振り返ることとしています。	—
38	4 構成 (イメージ)	「(4)横断的な取り組み」の「また、各住民自治協議会と行政との連携を強化し、『地域まちづくり計画』に基づくそれぞれの地域の個性を活かした取り組みと、『総合計画』に基づく全市的な取り組みを一体的に進めます。」について、 平成24年3月発行の伊賀市生涯学習推進大綱後期計画書の「地域まちづくり計画の策定支援」についての記述の中には、「市は地域の住民が主体となって地域の課題問題点を地域住民で解決し、住みよい地域の形成と活力あふれる地域の創造につなげるための「地域まちづくり計画」の策定・見直し支援を行いました。」と記述されていますが、なぜか、玉滝地域まちづくり協議会の計画書は、発足当時のままです。	生涯学習推進大綱後期計画書の計画期間は、平成24年度から平成28年度までであり、現在は令和3年度に改訂した伊賀市生涯学習推進指針により、本市の生涯学習を推進しています。 なお、各住民自治協議会が策定する地域まちづくり計画については、社会情勢等の変化に応じて適宜見直し等を行うことが望ましいと考えます。そのため、引き続き見直しに係る支援等を行います。	—
39	4 構成 (イメージ)	「(5)行政マネジメントの強化」について (5)策定体制及び伊賀市行政総合マネジメントを強化します。 ①計画の推進による進行管理の強化 ②市民意識調査、施策の評価の強化 ③全庁横断的な策定体制を構築するとともに意欲ある若手職員の声を最大限に取り入れることで、各職員が持つ知識・経験を結集した実現性の高い計画となるように努めます。	策定体制については、「5策定体制」に記述しています。 なお、若手職員の声も積極的に取り入れます。	—

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
40	4 構成 (イメージ)	テーマが他市とよく似ているのは何故かを教えてください。	人口減少や少子高齢化は、本市に限ったことではなく、全国的に共通する課題となっています。 今回、パブリックコメントでいただいたご意見を反映しながら、将来像やテーマをお示しします。	—
41	4 構成 (イメージ)	「(1)これまでの振り返り(成果と課題)と社会情勢の変化」の2行目「社会の状況を確認します。」について 振り返りで市庁舎本庁、総合病院、消防署、移転での市街地の課題、移転先の課題、状況確認します。必用と思うので	計画の中で、第2次伊賀市総合計画だけでなく、合併して20年を振り返ります。	—
42	4 構成 (イメージ)	「(3)分野別の取り組み」について 行政が取り組むことだけではなく、地域や市民が取り組むこと、考えるべきこと、協力して進めるべきことも記述が必要だと思います。また、計画に示された「あるべき姿」に近づくように、市民と地域と行政、市民同士の関わり合い方について、グランドルール(※8)的なものが必要かと思えます。 兵庫県朝来市の「みんなの合言葉」が参考になると思えます。 https://www.city.asago.hyogo.jp/soshiki/3/2352.html	ご紹介していただいた事例を参考に、自治のしくみを確立することが必要です。 ※8「グランドルール」：会議やミーティングを意義のある場とするためにあらかじめ決めておくルールのこと。	—
43	4 構成 (イメージ)	それぞれの地域に合わせた課題解決や、伊賀の特性の活用、共通課題の他自治体との連携などは、大切でいいことだと思います。 ただ、その地域の意見などと言っても、代表者だけの意見の場合もあります。代表の方々は、間違いなく地域を思っていて意見をしてくださると思いますが、各地域の隅々までの声を聞くのは、やはり様々な面で無理があると思えますし、小さな地域だからこそ、直接意見を伝えられないことも住民同士にあります。 そうした場合、例えば自然開発や、公共物の廃止など、大きな課題などは特に、市が個人情報保護の上で、各住民からアンケートを取ったり、意見募集するなどの対応してほしいと思います。情報公開と話し合いの場を十分に持つこともお願いします。 代々住み続けた人だからわかることや、移住して来たから見えること、何らかの不自由を感じる人の要望、子どもならではの考え、年長者の知恵など、人それぞれの思いを出し合って、100%は無理でも、それぞれが納得に近づいた上で、物事を進めてほしいです。十把一絡げでなく、一人ひとりが伊賀市民であることを 毎日をその場所で生きてる人であることを常に忘れずに進めてください。	住民自治の在り方、広聴広報に関するご意見として承ります。 さまざまな機会をとらえて、より多くの市民の皆さんのご意見を聴きたいと考えています。 いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。	—
44	4 構成 (イメージ)	古き町の中にも美しい街づくりが必要だと思います。美化環境意識にいまひとつ気になるところがあり、同市への訪問する人は、まずは町の顔としての第一印象として“街の美しさ”、を見る。現代の問題である空き家問題の解決と地域清掃(道路わきの雑草等)や美化の面で問題があると思う。	まちづくりに関するご意見として承ります。 いただいたご意見は、今後、関係部署と共有させていただきます。	—
45	5 策定体制	「(5)市民」について 参加による検討の機会を設けることを明記してください。市民が直接参加して検討する機会を設けることで、まちの未来を自分ごとと捉える人材を育てることもつながります。具体的には、中・高校生ワークショップ、大学生ワークショップ、あるいは属性や世代を限定しないワークショップなどが考えられます。	パブリックコメントやワークショップの実施など、様々な機会をとらえてより多くの市民の意見を聴きたいと考えています。 ※3「ワークショップ」：参加者が主体的に参加する体験型の講座のこと。	○

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
46	5 策定体制	時代の進歩は早い。将来の事を議論、策定する場合、それが1年2年ではなく10年や25年先であれば、今の若者が社会の中心となって動かしている時代を計画しようとしていることになる。市長、市議の年齢層だけではなく、本部会議、審議会、議会、全てに、一定以上の20代、30代の若者が、或いは10代も、さらには外国人も委員として参加して、自由に発言、議論した結果でなければ、魂の入った総合計画にはならないのではないか？本部、審議会、議会のメンバー構成が大変気になるので、開始前に十分検討して市民に公開していただきたい。	若者や多様な主体の意見を取り入れられるよう、公募委員の選考などの参考にさせていただきます。	—
47	5 策定体制	市民の意見をそのまま反映するチャンスが少なすぎる。若い世代、中高生、仕事をしている女性などに自分ごととして考えてもらえるように、早い段階（『めざす姿』を議論する段階）で主体的に参加してもらえるようなワークショップや話し合いの場を設けてほしい。市内の中学校・高校に積極的な周知をして、メンバーを募集してほしい。	様々な機会をとらえて、若者、女性をはじめ多くの市民の皆さんの意見を聴きたいと考えています。	—
48	5 策定体制	議会は全員協議会での説明とパブコメだけという関りではなく、もっと策定段階からいっしょに勉強し、意見を言うべきではないでしょうか。	自治基本条例においても伊賀流自治のしくみについて、市民、市議会、行政それぞれの役割を明らかにする旨がうたわれていますので、市議会にも策定の段階において、市の考えや市民の意見をお示しします。	—
49	6 策定スケジュール	パブリックコメントを求める際にサマリー版も作成していただければ、コメントが集まりやすいのではないのでしょうか。（ページ数が多いと読むのが非常に大変です。）また、市民に公開する際にもサマリー版は必要だと思います。	市民の皆さんにご意見をいただく際には、計画案の内容をわかりやすくまとめたものをお示しします。	—
50	7 その他	伊賀市には新生児が産める補助金などのバックアップ環境、新生児が出来たら減税するなどの優遇制度を作ってほしい。私事ですが会社は人材倒産の未来しか見えず、景気も引き続き悪いです。原材料高騰、毎年上がり続ける最低賃金と税金では将来は暗黒のように真っ黒で不安しかなく結婚がしたいなと思っても伴侶の生活を保障できる未来が見えず結婚することが出来ません。	子育て・少子化対策へのご意見として承ります。いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。	—
51	7 その他	伊賀市生涯学習推進大綱の後期基本計画書には、「住民自治活動への支援策として、地域まちづくり計画の実現に向けた情報提供や、他団体とのコーディネートや地域課題の解決事例など、必要に応じたきめ細やかな活動支援を行っていきます。」と記述されていますが、実行されているとは思えない。	伊賀市生涯学習推進大綱後期計画書では、地域住民の連携や交流の基盤となる住民自治協議会などのコミュニティは、活力ある地域社会を構築する上で不可欠なものであることからご意見のとおり内容を記載していました。 なお、生涯学習推進大綱後期計画書の計画期間は、平成24年度から平成28年度までであり、現在は令和3年度に改訂した伊賀市生涯学習推進指針により、本市の生涯学習を推進しています。 また、住民自治協議会が行う生涯学習活動の業務支援を行うべく生涯学習支援員を設置しています。	—
52	7 その他	伊賀市行政に係る人達はずっとコスト意識をもってほしいです。市役所等施設の人員の効率化、コストダウンされていますか？市役所に行くといつも人が多いと感じます。暖房などの電気代節約していますか？トイレひとつ作るのに約9500万円なんて一般の感覚からするとありえないと思います。耐震性が問題で耐震工事に莫大な予算がかかるということで新しい市庁舎を立てられたと思います。旧市役所は図書館、宿泊施設で引き続き使用するという事になっていますが。民間でも必死にコストダウンをしています。行政においても身を切る改革をし支出を減らし市民の血税たる税金を効率よく意味のある使い方をしてほしい。	行財政運営に対する意見として承ります。いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。	—

意見No.	該当箇所	ご意見等	市の考え (※は、頂いたご意見等の用語解説です。)	策定方針への反映
53	7その他	そんなんする前に18歳の成人式辞める事を考えてくれませんか？すごくお金が必要な時期にまだ、お金がかかる事をさせるって市民の事何も考えてないですよ？それとも市が負担したり何か援助してくれるんですか？子供達も友達と成人式が出来ない。って、悲しんでいます。名張のように20歳の集いにしたらいいんじゃないんですか？	個別の事業に対するご意見として承ります。 いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。	—
54	7その他	現在の行政は観光に重点をおいていると思われる。住民の生活に目を向けて、計画してほしい。1億円のトイレは必要ですか。1億円を住民自治に活用したら住民自治は活動的になるはず。住民とのつながりを大切にしているような表現ですが、そうは感じられない。 10年後、2050年、伊賀市はどうなっているのか。限界集落(※9)になっていないか。市長にふりまわされない目標をもって活動いただきたい！	個別の事業に対するご意見として承ります。 いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。 ※9「限界集落」：65歳以上の高齢者が集落人口の50%を超え、集社会的共同生活の維持が困難な状態にある集落。	—